

全体的な傾向として、昨年度との比較で、点数が下がっている傾向にあるが、これは自分の教育・保育を評価する目が厳しくなったことが考えられ、これはとりもなおさず保育の質の向上につながると考えます。また例年通り正規職員と非正規職員を比較した場合、非正規職員のほうが各分野において自己評価平均点数が高いことが認められる。これは正規職員は比較的経験年数が浅く（年齢も若い）、自分と先輩や非正規の子育て経験者の教育・保育を自然と比較してしまい、力量の不足ととらえてしまう傾向にあることが原因と考えられる。特に3歳未満児の保育に関してその傾向が強と思います。

3歳以上児に関する項目でも前述の傾向は同様だが、その差は明らかに少なくなっており、その原因としては担任数の少ない3歳以上児担任に若い正規職員が配置されることが多く、3歳未満児の担任は複数担任の数も多くしかも子育て経験のある非正規職員が多いことが考えられる。ただ非正規職員の中には保育補助から保育士免許を新たに撮った職員や、保育士資格を取得して日の浅い職員もあり、自己評価点は低くなる傾向がうかがわれます。

第3章の健康及び安全に関しては、個々でも昨年度より平均点数が低くなっているが、コロナ・インフルエンザ等の感染症や子どもの安全に対する意識が強まって自己評価のハードルが上がっていると思われまます。全職員の意識はさらに高くなっており、特に令和2年から全世界にパンデミックを起こした新型コロナウイルス感染防止に対する意識や対策及び、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策が、日頃の教育・保育内容にも影響していることがうかがわれます。また食育に関しても具体的な目標等が立てやすい3歳以上児の担任の意識が高く、当然ではあるが厨房職員は保育教諭よりも高い意識で取り組んでいることがうかがえます。今後は厨房職員の意識の高さをさらに保育教諭やその他の職員にも水平展開できるように心掛けていきたいとおもいます。

災害への備えに関する取組意識や、危機意識は昨年同様職員全体に高いが、地域や行政との連携に対する意識は総じて低くなっています。これは昨年同様の結果であるが、具体的な方策を立案し、今後は表面的な訓練だけでなく、内容を重視し地域との連携を意識した訓練を行っていくべきと考えます。

第4章子育て支援に関しては平均点数が低い傾向にある。在園児の保護者に関しての支援はその家庭ごとの微妙な問題や保護者の性格・方針・経済事情・国籍・宗教等いろいろな要素が複雑に絡み合う中で、全ての職員が（担任といえども）軽々に保護者とのやり取りを行うわけにはいかないという法人の方針もあり、自己評価としては低くなっていると考えられます。その代わり統括園長や各施設の副園長が保護者の要望や意見等を傾聴する体制をとって職員間で話し合い、職員全体の意識も高めてまいります。

今後は各項目の内容に対して、冒頭にも述べたように、昨年度より点数が低くなっているものの、職員の意識が高まり自らの教育・保育に対する姿勢に厳しくなった目と思われまます但し各項目の質問の内容に関する認識が共通又は共有しているとはいいがたく、さらに年齢や経験、知識等によって認識も異なることから、特に若い職員及び経験年数の浅い職員に関しては教育・保育の本質を少しずつ習得し自信をつけられるように、ベテラン職員や子育て経験のある職員に対しては、これまでの教育・保育にこだわらずに、変化することに対して受け入れ実行できる体制を構築していくことが重要だと思います。